月次レポート：2026年9月

ファンドラップ AXIS

レポート作成月：2026年10月

9月の運用実績

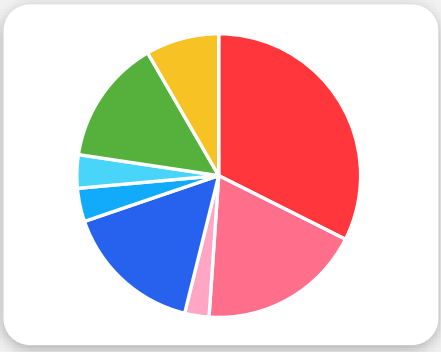
AIおまかせコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

期間	計算期間開始日	AIおまかせコース
1ヵ月	2026/8/31	-4.58%
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-3.04%

※1　グラフが示す「ファンドラップAXIS AIおまかせコース」（以下、「AIおまかせコース」ともいいます）の運用実績は、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年9月30日まで、「AIおまかせコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定し、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。計算期間開始日から2026年9月30日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬1.87%（年率、税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/9/4のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率（%）
米国株式	（ラップ専用）SBI・米国株式	32.41%
先進国株式	（ラップ専用）SBI・先進国株式	18.68%
新興国株式	（ラップ専用）SBI・新興国株式	2.77%
米国債券	（ラップ専用）SBI・米国債券	15.91%
米国ハイイールド債券	（ラップ専用）SBI・米国ハイイールド債券	3.80%
新興国債券	（ラップ専用）SBI・新興国債券	3.80%
米国不動産	（ラップ専用）SBI・米国不動産	14.28%
金	（ラップ専用）SBI・ゴールド	8.35%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率

※2　騰落率グラフは2026年8月31日の価額を基準に、2026年9月30日における各投資対象ファンドおよび「AIおまかせコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（9月30日時点の基準価額または為替レート／8月31日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「AIおまかせコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による原油高や米国の3年ぶりの利上げ等を受けて、先進国や新興国を中心に下落しました。為替市場は、月前半に日銀の追加利上げ観測等で円高・ドル安が進んだ後、米国の利上げを受けて円安・ドル高に転じたものの、月末にかけては介入警戒感等から円が買い戻され、前月末比では円高・ドル安となりました。その結果、すべての投資対象ファンドが下落しました。

そのような投資環境下で、2026年9月の「AIおまかせコース」は、株式資産の比率を概ね保ちながら「先進国株式」から「米国株式」へのシフトを進め、その他の資産では「金」を主に減らして「米国債券」を増やす等の調整を行い、株式への積極性を保ちつつバランスにも配慮した投資配分としていました。

その結果、最も下落幅が小さかった「米国株式」を多く保有していたことや、大きく下落した「金」の比率を引き下げていたことは下落幅を一部抑制しましたが、円高・ドル安の逆風も相まってすべての投資対象ファンドが下落したため、2026年9月は-4.58%となりました。

ファンドラップ AXIS

レポート作成月：2026年10月

10月の運用

AIおまかせコース

2026年10月のリバランス

2026年10月に実施したリバランス時点で参照した、AIによる各資産のリターン予測を確認すると、「米国株式」や「米国不動産」などの見通しが高位となった一方、「金」などは相対的に低位な見通しとなりました。

その結果、「AIおまかせコース」は、前月に引き続き「先進国株式」の配分を見通しが高位な「米国株式」にシフトさせつつ、その他の資産では「米国債券」や「金」を主に減らして他の債券資産を増やすなど、資産間のバランスを調整しながら、米国株式に重きをおく投資配分となっています。

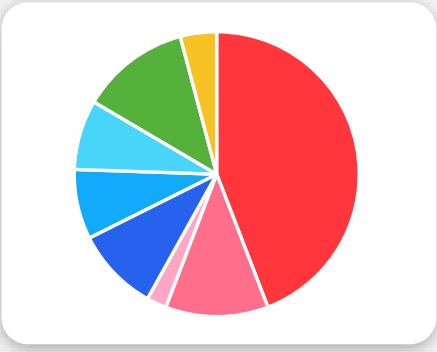
「米国株式」は、長引く原油価格の不安定な状況が見通しに大きくプラスに寄与する傾向が継続し、相対的に見通しが低位であった「先進国株式」から、前月に引き続き配分をシフトしました。

「米国債券」は、各国の金利が上昇するなかで、多様なリスク性資産の下落や、ドル／円為替相場が円高方向に動いていること等がマイナスに影響して見通しが後退したため、他の債券資産に配分を分散させました。

「金」は、原油価格の高い振れ幅が見通しにマイナスに影響し、前月に続いて配分を減らしました。

「AIおまかせコース」は、今後も市場動向の変化に応じて投資配分を変更することで、パフォーマンスの最大化を目指します。

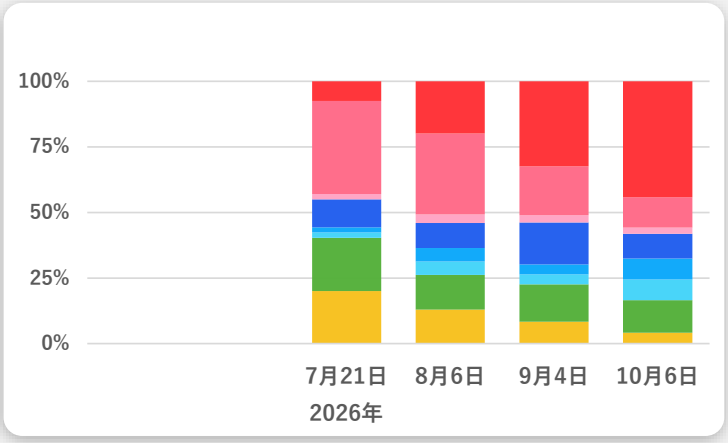
2026/10/6のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率（%）
米国株式	（ラップ専用）SBI・米国株式	44.15%
先進国株式	（ラップ専用）SBI・先進国株式	11.67%
新興国株式	（ラップ専用）SBI・新興国株式	2.26%
米国債券	（ラップ専用）SBI・米国債券	9.53%
米国ハイイールド債券	（ラップ専用）SBI・米国ハイイールド債券	7.93%
新興国債券	（ラップ専用）SBI・新興国債券	7.93%
米国不動産	（ラップ専用）SBI・米国不動産	12.41%
金	（ラップ専用）SBI・ゴールド	4.12%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

直近のモデルポートフォリオの投資配分推移



	9月4日時点	10月6日時点
資産分類・地域	RL4（高成長運用）	RL4（高成長運用）
米国株式	32.41%	44.15%
先進国株式	18.68%	11.67%
新興国株式	2.77%	2.26%
米国債券	15.91%	9.53%
米国ハイイールド債券	3.80%	7.93%
新興国債券	3.80%	7.93%
米国不動産	14.28%	12.41%
金	8.35%	4.12%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

※3　ポートフォリオのリスクレベル（RL）は、リスク資産（米国株式、先進国株式、新興国株式、米国不動産）の構成比率合計に基づき1～5（低→高）の5段階で評価していますが、目安であり実際のリスク（ボラティリティ水準）とは異なる場合があります。

「ファンドラップ AXIS セレクトコース」を参考にして作成した、RLを評価する基準（2026年10月6日現在）は以下の通りです。
- RL1（安定運用）：26%未満
- RL2（安定成長運用）：26%以上44%未満
- RL3（成長運用）：44%以上63%未満
- RL4（高成長運用）：63%以上76%未満
- RL5（積極運用）：76%以上

月次レポート：2026年9月

ファンドラップ AXIS

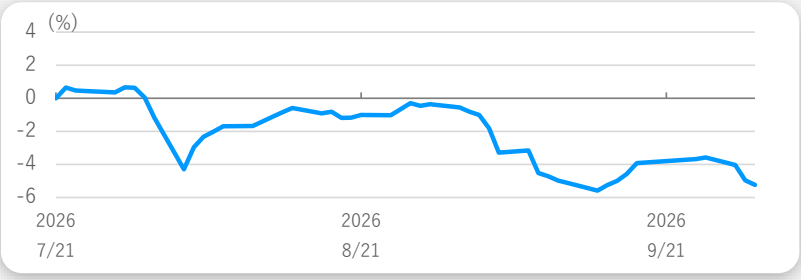
レポート作成月：2026年10月

9月の運用実績

セレクトコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

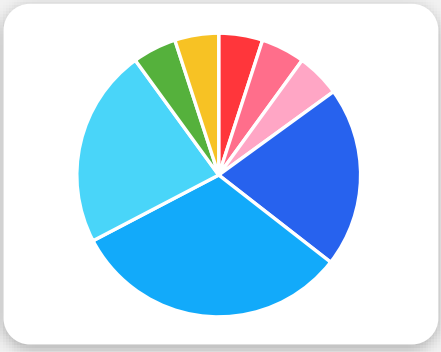
プラン１：安定運用



期間	計算期間開始日	1:安定運用
1ヵ月	2026/8/31	-4.69%
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-5.22%

※1　グラフが示す「ファンドラップ AXIS セレクトコース」（以下、「セレクトコース」ともいいます）の運用実績について、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年9月30日まで、「セレクトコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）
※2　グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年9月30日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬年率1.87%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/9/4のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率（%）
米国株式	（ラップ専用）SBI・米国株式	5.00%
先進国株式	（ラップ専用）SBI・先進国株式	5.00%
新興国株式	（ラップ専用）SBI・新興国株式	5.00%
米国債券	（ラップ専用）SBI・米国債券	20.53%
米国ハイイールド債券	（ラップ専用）SBI・米国ハイイールド債券	31.80%
新興国債券	（ラップ専用）SBI・新興国債券	22.67%
米国不動産	（ラップ専用）SBI・米国不動産	5.00%
金	（ラップ専用）SBI・ゴールド	5.00%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率

※3　騰落率グラフは2026年8月31日の基準価額を基準として、2026年9月30日における各投資対象ファンドおよび「セレクトコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（9月30日時点の基準価額または為替レート／8月31日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「セレクトコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による原油高や米国の3年ぶりの利上げ等を受けて、先進国や新興国を中心に下落しました。為替市場は、月前半に日銀の追加利上げ観測等で円高・ドル安が進んだ後、米国の利上げを受けて円安・ドル高に転じたものの、月末にかけては介入警戒感等から円が買い戻され、前月末比では円高・ドル安となりました。その結果、すべての投資対象ファンドが下落しました。
結果として、すべての投資対象ファンドが下落するなか、特に「米国ハイイールド債券」や「新興国債券」のマイナスへの影響が大きかったため、2026年9月の月間のパフォーマンスは -4.69%となりました。

月次レポート：2026年9月

ファンドラップ AXIS

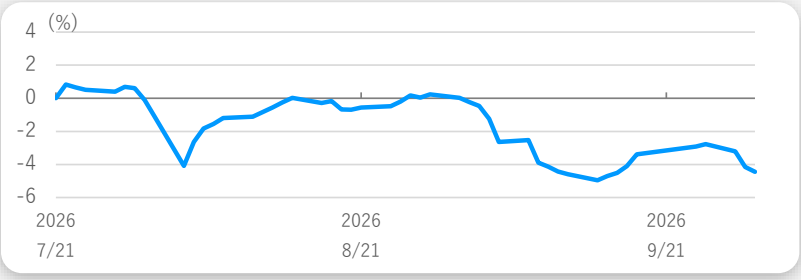
レポート作成月：2026年10月

9月の運用実績

セレクトコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

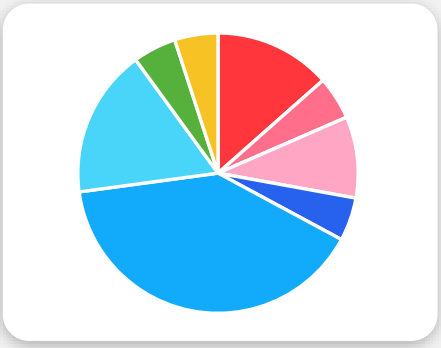
プラン2：安定成長運用



期間	計算期間開始日	2:安定成長運用
1ヵ月	2026/8/31	-4.47%
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-4.44%

※1　グラフが示す「ファンドラップAXIS セレクトコース」（以下、「セレクトコース」ともいいます）の運用実績について、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年9月30日まで、「セレクトコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）
※2　グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年9月30日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬年率1.87%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/9/4のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率（%）
米国株式	（ラップ専用）SBI・米国株式	13.47%
先進国株式	（ラップ専用）SBI・先進国株式	5.00%
新興国株式	（ラップ専用）SBI・新興国株式	9.39%
米国債券	（ラップ専用）SBI・米国債券	5.00%
米国ハイイールド債券	（ラップ専用）SBI・米国ハイイールド債券	40.00%
新興国債券	（ラップ専用）SBI・新興国債券	17.14%
米国不動産	（ラップ専用）SBI・米国不動産	5.00%
金	（ラップ専用）SBI・ゴールド	5.00%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率

※3　騰落率グラフは2026年8月31日の基準価額を基準として、2026年9月30日における各投資対象ファンドおよび「セレクトコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（9月30日時点の基準価額または為替レート／8月31日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「セレクトコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による原油高や米国の3年ぶりの利上げ等を受けて、先進国や新興国を中心に下落しました。為替市場は、月前半に日銀の追加利上げ観測等で円高・ドル安が進んだ後、米国の利上げを受けて円安・ドル高に転じたものの、月末にかけては介入警戒感等から円が買い戻され、前月末比では円高・ドル安となりました。その結果、すべての投資対象ファンドが下落しました。
結果として、すべての投資対象ファンドが下落するなか、特に「米国ハイイールド債券」や「新興国債券」のマイナスへの影響が大きかったため、2026年9月の月間のパフォーマンスは -4.47%となりました。

月次レポート：2026年9月

ファンドラップ AXIS

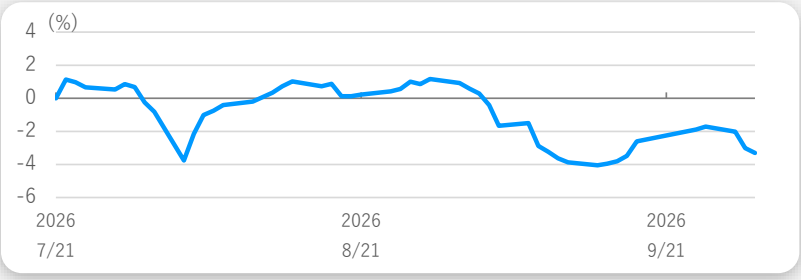
レポート作成月：2026年10月

9月の運用実績

セレクトコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

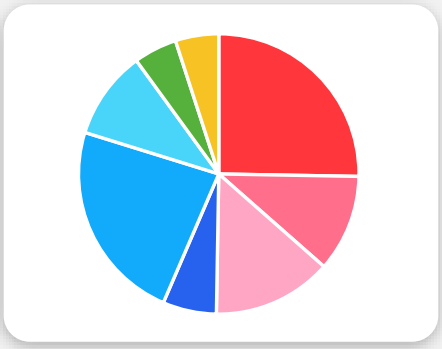
プラン３：成長運用



期間	計算期間開始日	3:成長運用
1ヵ月	2026/8/31	-4.18%
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-3.30%

※1　グラフが示す「ファンドラップAXIS セレクトコース」（以下、「セレクトコース」ともいいます）の運用実績について、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年9月30日まで、「セレクトコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）
※2　グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年9月30日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬年率1.87%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/9/4のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率（%）
米国株式	（ラップ専用）SBI・米国株式	25.28%
先進国株式	（ラップ専用）SBI・先進国株式	11.21%
新興国株式	（ラップ専用）SBI・新興国株式	13.78%
米国債券	（ラップ専用）SBI・米国債券	6.20%
米国ハイイールド債券	（ラップ専用）SBI・米国ハイイールド債券	23.32%
新興国債券	（ラップ専用）SBI・新興国債券	10.21%
米国不動産	（ラップ専用）SBI・米国不動産	5.00%
金	（ラップ専用）SBI・ゴールド	5.00%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率

※3　騰落率グラフは2026年8月31日の基準価額を基準として、2026年9月30日における各投資対象ファンドおよび「セレクトコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（9月30日時点の基準価額または為替レート／8月31日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「セレクトコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による原油高や米国の3年ぶりの利上げ等を受けて、先進国や新興国を中心に下落しました。為替市場は、月前半に日銀の追加利上げ観測等で円高・ドル安が進んだ後、米国の利上げを受けて円安・ドル高に転じたものの、月末にかけては介入警戒感等から円が買い戻され、前月末比では円高・ドル安となりました。その結果、すべての投資対象ファンドが下落しました。
結果として、すべての投資対象ファンドが下落するなか、特に「米国ハイイールド債券」や「米国株式」のマイナスへの影響が大きかったため、2026年9月の月間のパフォーマンスは -4.18%となりました。

月次レポート：2026年9月

ファンドラップ AXIS

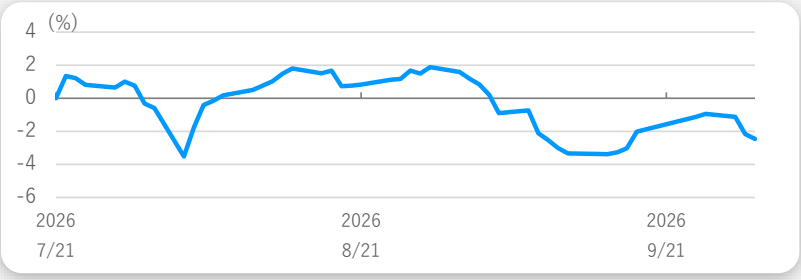
レポート作成月：2026年10月

9月の運用実績

セレクトコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

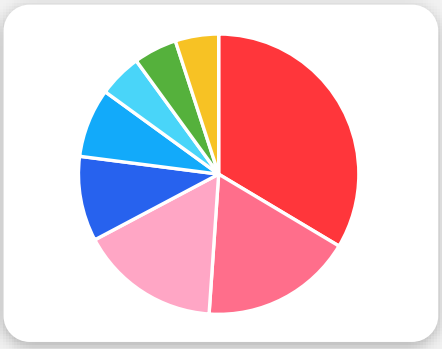
プラン４：高成長運用



期間	計算期間開始日	4:高成長運用
1ヵ月	2026/8/31	-3.98%
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-2.45%

※1　グラフが示す「ファンドラップ AXIS セレクトコース」（以下、「セレクトコース」ともいいます）の運用実績について、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年9月30日まで、「セレクトコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）
※2　グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年9月30日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬年率1.87%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/9/4のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率（%）
米国株式	（ラップ専用）SBI・米国株式	33.57%
先進国株式	（ラップ専用）SBI・先進国株式	17.52%
新興国株式	（ラップ専用）SBI・新興国株式	16.15%
米国債券	（ラップ専用）SBI・米国債券	9.80%
米国ハイイールド債券	（ラップ専用）SBI・米国ハイイールド債券	7.96%
新興国債券	（ラップ専用）SBI・新興国債券	5.00%
米国不動産	（ラップ専用）SBI・米国不動産	5.00%
金	（ラップ専用）SBI・ゴールド	5.00%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率

※3　騰落率グラフは2026年8月31日の基準価額を基準として、2026年9月30日における各投資対象ファンドおよび「セレクトコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（9月30日時点の基準価額または為替レート／8月31日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「セレクトコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による原油高や米国の3年ぶりの利上げ等を受けて、先進国や新興国を中心に下落しました。為替市場は、月前半に日銀の追加利上げ観測等で円高・ドル安が進んだ後、米国の利上げを受けて円安・ドル高に転じたものの、月末にかけては介入警戒感等から円が買い戻され、前月末比では円高・ドル安となりました。その結果、すべての投資対象ファンドが下落しました。

結果として、すべての投資対象ファンドが下落するなか、特に「米国株式」や「先進国株式」のマイナスへの影響が大きかったため、2026年9月の月間のパフォーマンスは -3.98%となりました。

月次レポート：2026年9月

ファンドラップ AXIS

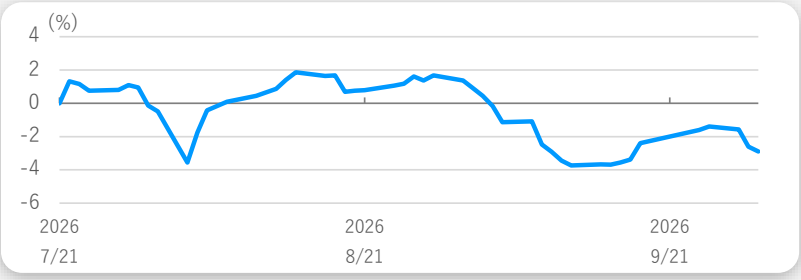
レポート作成月：2026年10月

9月の運用実績

セレクトコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

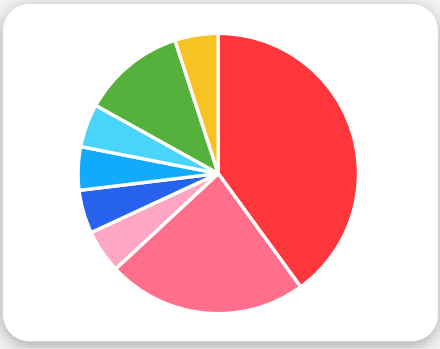
プラン５：積極運用



期間	計算期間開始日	5:積極運用
1ヵ月	2026/8/31	-4.20%
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-2.89%

※1　グラフが示す「ファンドラップ AXIS セレクトコース」（以下、「セレクトコース」ともいいます）の運用実績について、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年9月30日まで、「セレクトコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）
※2　グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年9月30日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬年率1.87%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/9/4のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率（%）
米国株式	（ラップ専用）SBI・米国株式	40.00%
先進国株式	（ラップ専用）SBI・先進国株式	23.08%
新興国株式	（ラップ専用）SBI・新興国株式	5.00%
米国債券	（ラップ専用）SBI・米国債券	5.00%
米国ハイイールド債券	（ラップ専用）SBI・米国ハイイールド債券	5.00%
新興国債券	（ラップ専用）SBI・新興国債券	5.00%
米国不動産	（ラップ専用）SBI・米国不動産	11.92%
金	（ラップ専用）SBI・ゴールド	5.00%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率

※3　騰落率グラフは2026年8月31日の基準価額を基準として、2026年9月30日における各投資対象ファンドおよび「セレクトコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（9月30日時点の基準価額または為替レート／8月31日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「セレクトコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による原油高や米国の3年ぶりの利上げ等を受けて、先進国や新興国を中心に下落しました。為替市場は、月前半に日銀の追加利上げ観測等で円高・ドル安が進んだ後、米国の利上げを受けて円安・ドル高に転じたものの、月末にかけては介入警戒感等から円が買い戻され、前月末比では円高・ドル安となりました。その結果、すべての投資対象ファンドが下落しました。

結果として、すべての投資対象ファンドが下落するなか、特に「米国株式」や「先進国株式」のマイナスへの影響が大きかったため、2026年9月の月間のパフォーマンスは -4.20%となりました。

市場概況

レポート作成月：2026年10月

●米国市場概況

（現地通貨ベース）

代表的な指数	26年8月末	26年9月末	前月末比
S&P500	7,686.14	7,651.54	-0.45%

米国株式市場の指標であるS&P500は、上旬にイラン情勢の不安再燃による原油価格の上昇や、米雇用統計が市場予想を上回ったことを受けたFRB（米連邦準備制度理事会）の利上げ観測の強まり等から軟調に推移しました。中旬には、AI開発企業の経営陣によるAI開発ペースの減速要請等が重荷となったほか、16日にFOMC（米連邦公開市場委員会）で3年超ぶりとなる利上げが決定され、年内の追加利上げの可能性を示唆する見通しも公表されたことから、月中の安値を付けました。下旬には、対イラン外交の進展期待による原油高の一服やAI関連株の反発等を受けて上昇しましたが、その後は米景況指数の上振れ等を受けた長期金利の上昇から月末にかけて下落し、最終的に前月比-0.45%となりました。

●先進国市場概況（米国を除く）

（現地通貨ベース）

代表的な指数	26年8月末	26年9月末	前月末比
TOPIX	4,156.29	4,108.65	-1.14%
ストックス欧州600指数	651.10	634.89	-2.48%

日本株式市場の指標であるTOPIXは、上旬に米長期金利および約30年ぶりの水準に達した国内長期金利の上昇等から株式の割高感が意識され大幅に下落しました。その後は、日銀の利上げ観測による円高や、原油高が重荷となった一方、金融株の買い等に支えられ一進一退の推移となりました。下旬には、半導体関連銘柄の高い収益成長が再び注目されたこと等でやや持ち直したものの、最終的に前月比-1.14%となりました。

欧州株式市場の指標であるストックス欧州600指数は上旬、原油高やECB（欧州中央銀行）の利上げ等を受けて軟調に推移しました。中旬以降は原油高の一服で反発する場面もありましたが、米長期金利の上昇や欧州におけるインフレの上振れを受けたECBの追加利上げ観測等から上値は重く、最終的に前月比-2.48%となりました。

●新興国市場概況

（現地通貨ベース）

代表的な指数	26年8月末	26年9月末	前月末比
上海総合指数	3,986.29	3,842.19	-3.61%
インドSENSEX	76,957.27	72,480.29	-5.81%

中国株式市場の指標である上海総合指数は上旬、中東不安から下落した後は小幅に推移し、中旬に入ると内需の弱さを示す経済指標等を受けて軟調な推移となりました。原油高の一服や中国AI関連企業への期待感から一時反発したものの、下旬には、米追加利上げ観測や米中首脳会談の成果の乏しさ等が重荷となり下落して、最終的に前月比-3.61%となりました。

インド株式市場の指標であるインドSENSEXは、インドが原油の純輸入国であることから原油高による経済への懸念が強まり、ルピー安や外国人投資家の資金流出等も伴い月間を通して下落基調となりました。中旬には、原油高の一服を受けて一時上昇したものの、その後は原油価格の反発や米長期金利の上昇等を受けて約半年ぶりの安値圏まで下落し、最終的に前月比-5.81%となりました。

●為替・その他

代表的な通貨・金利	26年8月末	26年9月末	前月末比
ドル/円 為替レート	159.74	157.41	-1.45%
米国10年債利回り(%)	4.7500	5.2849	0.5349pt

ドル／円相場は、上旬に日銀の利上げ観測等を受けて、一時152円台と2月中旬以来の水準まで急激に円高・ドル安が進みました。中旬以降は、FRBの追加利上げ姿勢を受けた日米金利差の拡大や、原油高による日本の貿易収支の悪化懸念等から円安・ドル高に転じましたが、月末にかけて日米の財務当局による円安けん制から円が買い戻され、最終的に前月比1.45%の円高・ドル安となりました。

米国10年債利回りは、原油高に伴うインフレ懸念や米利上げ観測等を受けて上昇基調となり、中旬には5%超と終値ベースで2007年以来の高水準となりました。下旬には原油安で低下する場面もありましたが、米景況指数の上振れ等を受けて再び上昇し、最終的に5.2%台で月末を迎えました。

投資環境に関する過去の事実等の情報提供や、発行時点での投資環境やその見通しに関する見解をご紹介するために株式会社FOLIOが作成した資料です。記載内容は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果等を示唆又は保証するものではありません。信頼できると考えられる情報を用いて作成しておりますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。

各指数等のデータはBloombergが提供する値を用いています。表示されている値（米国10年債利回りを除く）は、小数第3位以下を切り捨てています。

「ファンドラップ AXIS」に関するご注意事項

- 「ファンドラップ AXIS」は、あかつき証券株式会社（以下「あかつき証券」といいます。）が、FOLIOを代理して、お客さまとFOLIOとの本サービスに係る投資一任契約の締結を行います。また、あかつき証券の委託を受けた金融商品仲介業者は、あかつき証券がFOLIOを代理して行うお客さまとFOLIOとの本サービスに係る投資一任契約の締結について、お客さまとあかつき証券の間の契約締結を媒介します。ただし、あかつき証券および金融商品仲介業者は、投資運用は行いません。
- 「ファンドラップ AXIS」投資一任契約にはクーリング・オフ制度は適用されません。
- 「ファンドラップ AXIS」のご利用にあたっては、一般のお取引口座である証券総合口座および本サービスの取引口座である投資一任口座の開設および投資一任契約の締結が必要です。（既にご開設済みの場合は不要です。）なお、証券総合口座の開設には、あかつき証券の審査があります。また、投資一任口座の開設及び投資一任契約の締結には、あかつき証券およびFOLIOの審査があります。したがって、審査の結果、それぞれの口座開設及び投資一任契約の締結をお断りする場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 「ファンドラップ AXIS」は投資一任契約に基づくものであるため、お客さまが自ら投資信託の個別の売買注文を行うことはできません。ご契約の締結にあたっては、契約締結前交付書面、投資対象ファンドの交付目論見書等をよくご確認いただき、ご負担いただく費用およびリスク等について十分にご理解いただき、ご自身でご判断ください。

「ファンドラップ AXIS」のリスクと費用について

- 「ファンドラップ AXIS」は投資対象となる8種類のラップ専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）を介して、海外ETFへ投資を行うため、次のような原因で預り資産の時価評価額は大きく変動する可能性があります。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。運用による損益はすべてお客さまに帰属します。
- 投資対象ファンドは、外国金融商品市場に上場している投資信託（ETF）を組み入れることにより運用を行いますので、金利水準、株式相場、不動産相場、商品（コモディティ）相場等の変動による組入有価証券の値動きおよび為替相場変動等に伴い、投資対象ファンドの基準価額も変動します。これらの要因により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。
- 投資対象ファンドに実質的に組み込まれた株式や債券等の発行者の倒産や信用状況等の悪化により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。
- お客さまには運用にかかる費用として、保有投資信託の時価評価額に対して1.87%（税込・年率）の「投資一任報酬」をご負担いただきます。その他に、投資対象ファンド毎に設定される「信託報酬」および「その他の費用」を間接的にご負担いただきます（信託財産留保額はかかりません）。お客さまにご負担いただく費用は、上記「投資一任報酬」と、間接的にご負担いただく「信託報酬」および「その他の費用」を足し合わせたものとなります。
- 「信託報酬」（X）は、すべての投資対象ファンドにおいて一律に、信託財産に対して0.1606%（税込・年率）がかかります。但し、投資対象ファンドを通じて投資するETFの経費率（Y）を足し合わせた“実質的な信託報酬（X+Y）“は、投資対象ファンド毎において異なります。なお、当該ETF の経費率（Y）は、0.03%～0.49%（年率）程度となります。また、「ファンドラップ AXIS」での運用にかかる“実質的な信託報酬“の合計額は、8種類の投資対象ファンドの組入状況によって異なりますが、最新の運用戦略を用いて運用を行った場合、その合計額は「AIおまかせコース」では0.22%~0.40%（税込・年率）程度、「セレクトコース」においては0.27%～0.47%（税込・年率）程度、となります。これらの数値は2026年6月24日時点における最新の目論見書の情報をもとに記載しており、将来変更される可能性があります。実質的な信託報酬は目安であり、投資対象とするETFの投資状況等により変動します。
- 「その他の費用」として、信託財産にかかる監査報酬、信託事務の処理に要する諸費用、法定書類（目論見書、運用報告書等）の作成等にかかる費用、組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管に要する費用等があります。「その他の費用」は原則としてお客さまの負担とし、信託財産の中から支払われます。なお、この費用は、運用状況等によって変動するため、事前に具体的な金額や上限額等を示すことはできません。ご負担いただく費用およびリスク等につきましては、投資一任契約に係る契約締結前交付書面、投資対象ファンドの交付目論見書等をご確認ください。

本資料は、投資環境に関する過去の事実等の情報提供や作成時点での見解をご紹介するために、「ファンドラップ AXIS」の投資運用業務を行う株式会社FOLIOが作成した資料です。記載内容は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果等を示唆又は保証するものではありません。信頼できると考えられる情報を用いて作成しておりますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。

● あかつき証券株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第67号
加入協会：日本証券業協会　一般社団法人 資産運用業協会
● 株式会社FOLIO
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第2983号
加入協会 ：日本証券業協会　一般社団法人 資産運用業協会

あかつき証券　folio